

# 春が来たよ! さあ、みんなでミツバチを見つけにいこう!

みんなが大好きな、あまくておいしいはちみつは、ミツバチがくれる自然の贈りもの。知っているようで知らない、小さなミツバチたちの暮らしをのぞいてみましょう。

# ミツバチ新聞

ミツバチからの  
たくさんの恵み

はちみつは貴重な  
自然からの贈りもの。



ホットケーキにかけたり、カレーのかくし味につかったり。みんなが大好きなあまいはちみつは、ミツバチが一生涯懸命に集めた花のみつから作られる自然の贈りもの。ミツバチからの恵みは、はちみつ以外にもたくさんあります。例えば巣を作るためのミツロウで、ク



ミツバチは花からみつをせつらつたり、ちやんとお返しをしよう。

ここ山田養蜂場では、ミツバチが好む花の種をまいたり、近所に配ったりして、はちみつを採取

こともできるのです。わたしたち山田養蜂場は、のどかな田園風景が広がる岡山県鏡野町で、65年にわたりミツバチを飼ってきました。花が咲きみだれる春は、ミツバチたちがせっせとみつを集めはじめます。今日は小さなミツバチの暮らしを、いっしょにのぞいてみましょう。

しています。4月から5月は、養蜂家ははちみつを採取するのに大忙し。はちみつを採る季節が終

ミツバチについて  
もっと知りたい方は

みつばち広場 検索

<http://honey.3838.com/>

わってからも、花の時期や気候に合わせて巣箱を移動させたり、冬にはちみつの貯えが足りなければエサを与えたりと、一年を通してミツバチのお世話をしながらいっしょに暮らしています。

ところで、ミツバチは花からみつをもらって生活していますが、植物に何かお返しをしているのでしょうか? 実は、ミツバチは花から花へと飛び回ることで花粉を運び、おしべの花粉をめしべにつけて、新しい命が生まれる手助けをしています。ミツバチと植物はそ



「いただきますながら  
命に感謝しながら」  
ミツバチは、短い一生の間どのくらいはちみつを集めているのかな。

一生けんめい花畑を飛び回り、花と巣の間を何度も何度も行き来するミツバチ。しかしその一生は約40日と短く、みつを集めるために飛び回れるのも、たった20日ほど



です。みなさんは、一匹のミツバチが一生涯かけて集めることのできるはちみつの量はどのくらいだと思いませんか? ミツバチは、集めてきた花のみの水分を羽で吸い出して半分くらいは蒸発させるので、小さなスプーン一杯分にも満たないほど少ないのです。はちみつを



ミツバチも人間と同じように、助け合って仲良く暮らしているよ。

ミツバチは家族と  
支え合って生きている

春から夏にかけての巣の中には、一匹の女王バチと3万〜4万匹のメスの働きバチ、1千〜2千匹のオスバチが大家族で暮らしています。卵を産めるのは女王バチだけなの



で、巣の中のミツバチたちはみんな女王バチの子どもののです。ミツバチは一匹では生きられません。どんなミツバチにも大切な役割があり、仕事を分担しなが



食するということとは、ミツバチの命をもらうことと同じです。

「は、ほかの命をいただいて、自分が生かされていることへの感謝のことば。いただいた命に感謝しながら、おいしくいただきますね。」

豊かな自然環境はミツバチに  
よって守られているんだよ

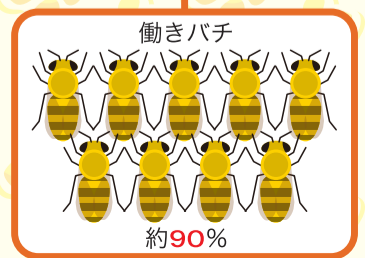
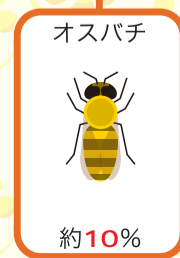
たくさん命をはぐんでくれる  
自然環境をみんなで大切にしよう。

ミツバチが生きていくためには、豊かな自然環境がなければなりません。豊かな自然環境は、



ら家族で仲良く助け合って暮らしているのです。その姿は、わたしたちに多くのことを教えてくれます。

作ります。この六角形の巣は「ハニカム構造」といって、造りがとても堅く、はちみつを貯える時にこぼれないように、少し上向きの造りになっ



ているなど、そのアイデアには驚かされます。

は、そのつながりの中で、植物の受粉という大切な役割を果たしているのです。そのミツバチが、最近少なくなっていると言われています。環境の変化や環境汚染など、その原因は色々と考えられますが、私たちの生活と深くかかわっているのは間違いないでしょう。もし地球上にミツバチがいなくなったらどうなるのでしょうか? 多くの植物が実をつけることができなくなり、おそろく地球の環境は大きく変化してしまってしまうでしょう。ミツバチのことを考えることで、私たちの住む地球環境のことに目を向けてみましょう。